

若 鷺

ホームページ



上野原中学校学校だより
第 6 号

令和7年9月30日発行

文責 校長 長谷川英信

第56回若鷺祭で上中生が成長したところは！

本校学園祭「若鷺祭」を9月14日の日曜日に開催いたしました。当日は朝から暑すぎず生徒達の暑さ対策にとっても最良の天候となりました。地域の皆様、保護者の皆様方におかれましては、朝早くから来校していただき誠にありがとうございました。お陰様で、生徒達一人一人の頑張りによる素晴らしい学園祭となりました。学校便りの先月号で、「学園祭の取組は生徒達を大きく成長させるものとなる」というお話をさせていただきました。今回、生徒達の成長した様子について詳しくお伝えしたいと思い、学校便りを作成しました。

今年度の、生徒会のスローガンは、「色合」です。「生徒一人一人の個性を色に例え、全校182名で彩る鮮やかな上中色を目指す」そのような思いを込めています。大切なのは、誰一人欠けることなく全員のことを考えていることなのです。また、若鷺祭のテーマは、「虹」です。虹は、太陽の光を反射し7色に輝く姿を見せます。上中生182名もこの学園祭で一層、輝きを増してほしい、その願いを生徒達は込めました。今回、オープニングで7色に輝くカブトムシの餌を探すストーリーが示されました。7色は、「協力すること」「責任を果たすこと」「助け合うこと」「励まし合うこと」「諦めないこと」「やり遂げること」「楽しむこと」です。この若鷺祭の当日に、学級で学年で全校で7つの宝物のを全て得たとき、その餌は7色に輝き出すそうです。本当に深いところまで考えられています。生徒達の手で創り上げたものです。本部役員を中心に企画が進められてたそうですが、企画した本部全員が、全校のことを思い、学園祭に熱中し今までよりも熱くならしてもらいたいそう考えていたことが素晴らしいのです。また、当日にはその願いを受け学級での長縄や障害物競争、全員リレーなど仲間を全力で応援する姿が多く見られました。「仲間のために学級のために一生懸命になる」そんな姿がグラウンドにはありました。長縄では、失敗した生徒を責めることなく、あえて励ます言葉をかける場面や、転んでしまった仲間に怪我をいたわる声かけをしていたり、生徒達はちゃんと分かって言動できていました。これこそこの取組の成果です。生徒達は、お互いに心が一つになる実感を味わうことができたと思います。このことは、生徒達にとってとても貴重で大切なことです。相手の存在を意識し、認め合い同じ目的に向かって力を合わせる。教師がいくら口で言ったって実感しなければ生徒達は分からないものです。今回の経験から、これからは同じ目標に向かうためには、どのように自分は協力すればいいのか、更に考えてもらいたい。当日は、雰囲気からノリでやっていたことも、これからは、しっかり考えて行ってもらいたいです。それが次の成長の段階です。

学園祭後半は、吹奏楽部の演奏、学年合唱、全校合唱がありました。吹奏楽部の発表は、3年生最後の演奏です。3年生の表情がコンクールの時とは違いこのメンバーでの最後の演奏を楽しんでいました。会場の手拍子による一体感も素晴らしかったです。そこには、3年間つらい練習に仲間と乗り越えやり通した3年生の勇姿がありました。学年合唱は、1年生から学年を上がるに従って声の迫力、真剣さが伝わってきました。特に3年生は、男子・女子のハーモニーがとても素晴らしかったし、2年生の指揮の生徒は学年をまとめ素晴らしい曲調を引き出していました。合唱の素晴らしさは、「周り」と息をそろえる「心を一にする」そんな体験ができ充実感を感じられることです。全校合唱では、観客に「私たち上中の合唱を聴いてください！」そんな強いメッセージを感じました。中学生にとって、この日は先生に言われるのではなく、自分から素直に「みんなのために」「みんなと一緒に」と思える日なのです。だからこそ、頑張りを保護者の方々には褒めてもらいたいそう思っていました。若鷺祭が終了し、CSの委員の方からメールが来ました。「若鷺祭、最高のギフト（贈り物：全校合唱曲名）をいただきました。素晴らしかったです」。市長様や教育長様、来賓の方々からもお褒めの言葉をたくさんいただきました。上中生の成長とパワーに感動と喜びを受けました。本校職員も本当に一生懸命取り組んでいました。生徒達の手作りの学園祭、職員も生徒に寄り添い全力で支えた第56回若鷺祭、校長として全てに感謝です。



学校では清掃の時間があります掃除活動に期待するもの！

学校の日課表には、給食後に15分間の清掃の時間があります。全国の学校の中には、生徒が清掃をしない学校も出てきています。しかし、上中ではこの清掃の時間を「生徒達を成長させる1つの手立て」と捉え大切に取り組んでいます。よく、「清掃は自分の心を磨くもの」そのように言われてきました。中学生がこの思いを実感できるかは難しいですが、毎日仲間と協力して作業を分担し、取り組み続けることこそ重要になってくると私は考えます。ほうきではいたり、雑巾で拭いたり、また雑巾をゆすいだり、ゴミをちりとりで集めたり、これらの作業は、かつては家の手伝いで当たり前のように行っていたことではないでしょうか、今の生徒達は、「全く家ではやっていません」そう答える生徒が非常に多くなってきています。将来、社会に出たとき会社でやるかもしれないし、一人暮らしをすればみんな自分でやらなくてはなりません。これらのことを中学生の段階で、身につけてもらいたい学校ではそう考えています。自分が掃除して、きれいになれば気持ちいいはず。その思いを知ってもらいたいです。みんなで取り組めばなおさらです。上中校舎は決して新しくはありません。しかしこれまで何十年も先輩方と職員が磨き上げてきた学校です。生徒達に清掃活動の中から「自分たちできれいにした学校に誇りを持ってもらいたい」そう願っています。いつか、生徒達にとって清掃が「やらされている」そう感じるものではなく、「進んできれいにしたい」そう思える取組になるよう、今日も生徒達と一緒に職員も清掃に力を入れていきます。



1年生の技術科授業に、プロが来てくれました！！

本校のCS(コミュニティースクール)の取組の一環で、今年度も、授業に地域の専門家の方々に来ていただき、教師と一緒に授業を進める取り組みを行っています。1年生の技術科木工で本棚を作成しています。9月18日を始まりとして、毎回3名から5名の地域の大工さんや測量士さんなどプロの方々が生徒の授業の講師役としてすぐそばで聞きたいときに専門的な技について教えてくれる、このような授業をしています。講師の方々も、「この段階で大工などの仕事に関心を持ってもらえればうれしい」そんな思いを持って丁寧に指導してくださいました。生徒達はいつもより多い先生に声をかけ、一生懸命制作しています。こういう地域の大人達との関わりから子どもたちは多くを吸収し、学んでいきます。社会に出るためのコミュニケーション能力の育成にも役立っていると思います。



※表題の中のQRコードを読み取り、是非とも、上野原中のホームページもご覧ください。